

次世代医療ICT基盤協議会のこれまでの成果等について

設置の目的

- 医療・介護・健康分野のデジタル基盤の構築とその利活用により、医療の質・効率性や患者・国民の利便性の向上、臨床研究等の研究開発、産業競争力の強化、社会保障のコストの効率化の実現を図るため、健康・医療戦略推進本部の下に、IT総合戦略本部と連携して、平成26年3月に「次世代医療ICTタスクフォース」を設置。
- 平成27年1月、行動計画の実行体制の更なる強化のため、「次世代医療ICTタスクフォース」のメンバーに、関係医療団体、学会や産業界等を加えた「次世代医療ICT基盤協議会」へ発展的に改組。

これまでの取組及び主な成果

- 協議会を平成27年4月、12月、平成28年3月に開催。
- 各テーマをWGとして進めることとし、「デジタルデータ収集・交換標準化促進WG」、「医療情報取扱制度調整WG」、「デジタルデータ収集・利活用事業の組成促進WG」、「医療への次世代ICT導入促進WG」等、WGを設置し検討。

〈主な成果〉 以下の点を盛り込んだ医療等分野データ利活用プログラムを、平成28年3月30日に策定。

- ・ 国等が保有するデータベースについて、患者データの長期追跡及び各データベース間の患者データ連携の実現に向けた工程表
- ・ データを活用した医療の質の向上、研究開発の促進、地域における医療機能の分化・連携、医療介護費用の適正化等

今後の方針

- デジタル化した医療等の現場から収集された多様なデータが、標準化・構造化等を通じ、関係者間で共有される仕組みを構築し、それが利活用されることで、①医療行政の効率化、②医療サービス等の高度化、③公的保険外ヘルスケアサービスの創出、④臨床研究・治験の効率化等による研究の促進を図る。特に、創薬や治療の研究開発等を促進するため、治療や検査データを広く収集し、安全に管理・匿名化を行い、利用につなげる「代理機関(仮称)」制度を検討する。
- 2020年までに医療・介護・健康分野の包括的なICT化を図り、効率的で質の高い医療サービスの実現を図るとともに、日本の医療・介護やヘルスケア産業そのものが新しい医療技術やサービスを生み出す世界最先端の知的基盤となることを目指す。

構成員

○ 議長 : 内閣官房健康・医療戦略室長

○ 構成メンバー: (五十音順)

飯塚 悦功	東京大学名誉教授
大江 和彦	東京大学医療情報分野教授
金子 郁容	慶應義塾大学SFC研究所主席所員
菊地 眞	公益財団法人医療機器センター理事長
喜連川 優	国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授
楠岡 英雄	独立行政法人国立病院機構理事長
近藤 達也	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
堺 常雄	日本病院会会長
神成 淳司	慶應義塾大学環境情報学部兼医学部准教授
末松 誠	国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長
田中 紘一	一般社団法人国際フロンティアメディカルサポート理事
永井 良三	自治医科大学長
中釜 齊	国立研究開発法人国立がん研究センター理事長
樋口 範雄	東京大学大学院法学政治学研究科教授
福井 次矢	聖路加国際大学学長・聖路加国際病院院長
堀 憲郎	日本歯科医師会会長
松本 純夫	独立行政法人国立病院機構東京医療センター名誉院長
矢作 尚久	国立研究開発法人国立成育医療研究センター 臨床研究開発センターデータ科学室室長代理

山崎 學	日本精神科病院協会会長
山本 修一	国立大学附属病院長会議常置委員長
山本 信夫	日本薬剤師会会長
山本 隆一	一般財団法人医療情報システム開発 センター理事長
横倉 義武	日本医師会会長
吉原 博幸	京都大学名誉教授・宮崎大学名誉教授（特別 教授）

○ 関係府省:

内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室長代理（副政府CIO）
総務省政策統括官（情報通信担当）
文部科学省研究振興局長
厚生労働省大臣官房技術総括審議官
厚生労働省保険局長
厚生労働省政策統括官（社会保障担当）
農林水産省食料産業局長
経済産業省商務情報政策局長
財務省主計局（オブザーバ）
一般社団法人Medical Excellence JAPAN（オブザーバ）

開催実績

➤第1回 平成27年4月2日
次世代医療ICT基盤協議会の設置目的、検討の方向性等について 等
➤第2回 平成27年12月25日
医療ICT基盤構築に向けた取組の現状と方向性について 等

➤第3回 平成28年3月30日（持ち回り開催）
「医療等分野データ利活用プログラム」の策定について 等

問題意識

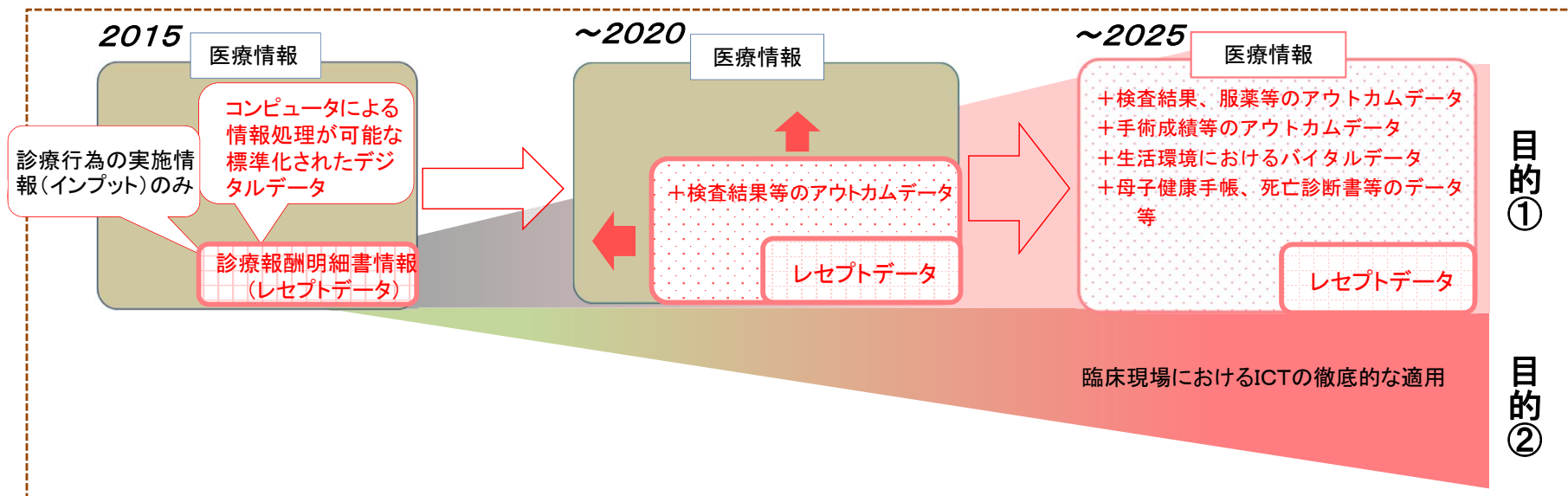
- 医療分野の高度化と効率化の両立による社会保障給付費の適正化は喫緊の課題。同時に世界最先端の臨床研究基盤を構築し、新しい医療技術・医薬品等を国内外の市場に展開する成長戦略的視点も重要。これらの両立には、臨床現場の徹底的かつ戦略的なデジタル化とともに、生成デジタルデータの戦略的利活用が不可欠。
- 現在、全国規模で利活用が可能な標準化されたデジタルデータは、診療行為の実施情報(インプット)である診療報酬明細書(レセプト)データが基本。診療行為の実施結果(アウトカム)に関する標準化されたデジタルデータを利活用することは、世界的にも重要な課題。(アウトカム＝検査結果、服薬情報等)

目的

- ①【医療ICT基盤の構築】 アウトカムを含む標準化されたデジタルデータ(以下データ)の収集と利活用を円滑に行う全国規模の仕組みの構築。
- ②【次世代医療ICT化推進】 臨床におけるICTの徹底的な適用による高度で効率的な次世代医療の実現と国際標準の獲得。

効果

- 世界最先端の医療行政・医療サービスの実現。医療の状況の正確で精密な把握や遠隔医療による医療資源の偏在の克服等。
- 世界最先端の臨床研究基盤の実現。(独)日本医療研究開発機構と車の両輪で新しい医療技術・医薬品・医療機器の開発が加速。
- 【医療行政・医療サービス】
 - 医療資源の偏在(時間・距離)を克服した全国均一の高度で質の高い診療の実現
 - 科学的根拠に基づく最適な治療の保険収載
 - 疾病の発生に即応した先制的な行政
- 【臨床研究／コホート研究】
 - 医薬品、再生医療 等、医療技術の開発促進(臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化効率化、信頼性向上)
 - 効果的な治療方法の発見や科学的選定。個別化医療の実現。科学的根拠のあるヘルスケアサービスの振興
- 【新技術／新産業創出】
 - 個人のヘルスケアデータを管理・運営するサービス等の新産業創出／新しい医療技術や科学的発見



収集情報の拡大の効果

- 治療予後等まで収集した医療情報の利活用で実現する世界 -

効果①

医療サービス
医療行政

- 科学的根拠に基づく最適な治療の選択（最先端の診療支援情報の提供）
- 医療資源の偏在を克服し、全国均一の質の高い医療の実現
- 効果的で質の高い遠隔／在宅医療や専門医診断の提供
- 疾病発生に即応した先制的な行政

効果②

新技術/臨床研究
疫学研究
人工知能等

- 医薬品、再生医療等開発促進（臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化、効率化、信頼性向上）
- 効果的治療方法の発見、科学的根拠のある健康サービスの振興
- コンピュータによる診断、手術支援等

効果③

新産業/個人の為の
健康サービス等

- 科学的根拠に基づく各個人に最適な健康管理の実現
- 検査データ等個人の意志で自身の医療データを適切な費用負担で預けられるサービス

実線：記名情報
点線：匿名情報

